

## 重点評価 |

■使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

### 1 総合評価の結果

建物名称	東京応化工業(株) 相模再構プロジェクト1期建設工事 新C-1棟			
BEE(建築物の環境効率)	0.7	BEEランク	B-	★★★☆☆

### 2 重点項目への取組み度

重点項目	評価	劣る → よい						
		LCCO <sub>2</sub> 排出率	93%	100%超	80%超	60%超		
地球温暖化への配慮 (ライフサイクルCO <sub>2</sub> )	LCCO <sub>2</sub> (ライフサイクルCO <sub>2</sub> ):建設してから解体するまでの建築物の一生(ライフサイクル)で使われる資材・エネルギーをCO <sub>2</sub> 排出量に換算し、足し合わせたもの	参照値(一般的な建物)を100%とした場合のLCCO <sub>2</sub> 排出量	100%超 ~100%以下	80%超 ~80%以下	60%超 ~60%以下	30%超 ~30%以下		
ヒートアイランド現象の緩和	ヒートアイランド現象(=都市部の気温が周辺部よりも高くなる現象)を緩和する対策に関する項目	スコア	2.0	Y × 1	Y × 2	Y × 3	Y × 4	Y × 5

### 3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア (5点満点 平均スコア=3点)

評価のポイント	レベル	地球温暖化への配慮
標準計算によるLCCO <sub>2</sub> (ライフサイクルCO <sub>2</sub> )排出率を評価	3.2	LR3/1 地球温暖化への配慮
構造躯体用部材の生産・加工段階における廃棄物削減の取組みを評価	3	LR2/2.1 材料使用量の削減
	3	LR2/2.2 既存建築躯体等の継続使用
	3	LR2/2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用
窓まわり、外壁、屋根や床(特にピロティ)における室内への熱の侵入に対する配慮の程度および庇やブラインド等の設置による日射遮蔽の程度を評価	-	Q1/2.1.2 外皮性能
室内における「夏の暑さ」と「冬の寒さ」を防ぐための建物の基本性能として、断熱・気密機能を評価	5	LR1/1 建物の熱負荷抑制
自然エネルギーの直接利用(採光利用、通風利用、地熱利用など)、変換利用(太陽光、太陽熱など)の導入の有無、導入の割合を評価	-	LR1/2 自然エネルギー利用
空調・換気・照明・給湯・昇降機によるエネルギー消費量の削減対策を評価	2.7	LR1/3 設備システムの高効率化
エネルギーの管理と制御によるエネルギー消費量の削減対策を評価	3.5	LR1/4 効率的運用
構造躯体などに使用する材料の交換等大規模な改修工事を必要とするまでの期間を伸張させるための対策の程度を評価	3	Q2/2.2.1 躯体材料の耐用年数

評価のポイント	レベル	ヒートアイランド現象の緩和
熱的な悪影響を低減する対策(敷地内へ風を導く、緑地や水面を確保する、建築設備による排気や排熱の位置等に配慮するなどにより暑熱環境を緩和する対策)を評価	2	Q3/3.2 敷地内温熱環境の向上
温熱環境の事前調査、敷地外への熱的な影響を低減する対策、温熱環境悪化改善の効果の確認に関する取組み度合いを評価	2	LR3/2.2 温熱環境悪化の改善

評価のポイント	レベル	関連項目
節水への取組み度合いを評価	4	LR2/1.1 節水
生物環境の保全と創出に関する配慮(立地特性の把握と計画方針の設定、生物資源の保全、量・質の確保、生物環境の管理と利用などを評価	1	Q3/1 生物環境の保全と創出

再生可能エネルギーの導入状況	主な指標および効果
種類	有無
太陽光	-
定格出力	( - )
太陽熱	-
風力	-
LCCO <sub>2</sub> の削減率 (=1-LCCO <sub>2</sub> 排出率)	7 %
設計上の配慮事項(自由記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>内外装には必要更新期間の長い材料を採用している。</li> <li>排熱を伴う設備機器はすべて屋上に設置し、周囲の暑熱環境の緩和を図っている。</li> <li>LED照明設備を導入し省エネルギー化を図っている。</li> <li>水資源の保護のため、節水器具を採用した。</li> </ul>

[入力欄]

[CASBEE-BD\_NC\_2016] : CASBEE-BD\_NC\_2016 の採点結果から転記してください。